

## シトロエン・レーシング、視点はすでに次戦ポーランドへ

2017年WRC第7戦ラリーイタリア・サルディニアは、総合8位のアンドレアス・ミケルセンがチーム最上位という、シトロエン・トタル・アブダビWRTの期待を下まわる結果となりました。今回のイベントで始めたアプローチを継続するべく、チームはラリーポーランド(6月29日-7月2日)でも再び、ミケルセンをチームのドライバーズラインナップに加えます。ポーランドにミケルセンとともにエントリーするのは、クレイグ・グリーンとステファン・ルフェーブルです。



### ラリーの展開

6月8日(木)に行われたセレモニアルスタートとスーパーSSに続き、ラリーの本格的な競技は9日(金)の朝から始まりました。オルビア周辺に設定されたこの日のステージは、4カ所を2回ずつ走行します。日中のサービスは、アルゲーロに設けられます。

クリス・ミーク/ポール・ナゲル組スタート後すぐにペースをつかみ、SS2ではステージウインを記録し総合首位に立ちました。シトロエンC3WRCにしっかりと手応えをつかんだミークは、その後ライバルにかわされるものの、SS4ですぐに首位を奪回しました。しかし、ミークのラリーはその後も続くことはありませんでした。SS5でバンクにヒットしたミークのC3WRCは転倒。このSSこそ走り切りましたが、この間に7分をロスしてしまいます。さらに到着したサービスではロールケージへのダメージが判明。そのため、リタイヤを余儀なくされました。

SS3では、総合6番手につけていたクレイグ・グリーン/スコット・マーティン組がリタイヤ。この段階で上位争いに残っているC3WRCは、アンドレアス・ミケルセン/アンデルス・ヤーゲル組の1台のみとなりました。グリーンはジャンプ後の着地で、露出していた地盤に車体を強くヒットし、ギャボックスにダメージを負い走行を続けることができなくなりました。事前の走行では、このポイントは把握できていませんでした。チームはマシンを修復し、グリーンはラリー2規定を適用して翌10日(土)に再スタートを切ることとなりました。

2台のリタイヤにより、ミケルセンはチームで唯一、ラリーを走り続けることになりました。シトロエンから初参戦のミケルセンは、C3WRCに対する理解を深めながら様々な調整を行っていくことを目指しました。この日は総合8番手のペースで走行していましたが、午後にひとつ順位を落としています。

10日(土)、ミケルセンは自分のアプローチに合わせてセットアップを調整しながら改善を続けていきました。名物ステージのモンティ・ラーノでは不運(午前中はパンク、午後はデファレンシャルトラブル)もありましたが、ミケルセンは気持ちをポジティブに保って走行を続け、セットアップが正しい方向に向かっていると確信していました。

この日、競技に復帰したグリーンは、コイルナ-ローレのステージで見事なパフォーマンスを披露しました。1回目の走行は3番手タイム、午後の2回目では2番手タイムを記録しています。しかし、そのほかのSSはあまり順調とは言えず、ハンドリングが思うようにいかずに間一髪という場面もありました。



競技最終日の 11 日(日)は距離が短く、4 つの SS を途中サービスを挟まずに走行するルート構成です。ミケルセンは、路面に砂利の多い 2 番手スタートとなりながらも、序盤 2 日間の進捗を活かして好タイムをマーク。同様にグリーンも、SS16 で再びトップ 3 タイムを刻んでみせました。

最終 SS のパワーステージを走り終えて、ミケルセンは、シトロエン・トタル・アブダビ WRT から出場する初めてのラリーを 8 位で完走しました。グリーン/マーティン組もラリーをフィニッシュし、マニファクチャラーズ選手権でのポイントをチームにもたらしめました。

## 悲喜こもごものラリー

今回の第 7 戦では、クルーによってリザルトがまったく異なるラリーとなりました。

「スタート前、私たちはドライバーたちにラリーを完走するように求めました。もし彼らがそれを果たせば、2 台はトップ 5 に入れるだろうと考えたからです。その考えは、間違っていないと思います」とシトロエン・レーシングのチーム代表、イブ・マトンは状況を説明します。

「ところが、クリスはミスのないラリーをするために必要なペースを維持することができませんでした。最初の SS を終えた時点で、彼はマシンの扱いやすさを感じており、掲げたターゲットに向けてペースも安定していると語っていました。残念ながら、彼はそれをキープすることができなかったのです」

「クレイグはジャンプの着地でマシンを強打し、彼の戦いは終わってしまいました」とマトンは続けます。

「ステージの経験不足が大きな痛手となり得ることが、証明されてしまいました。彼がダメージを負った場所は、このラリーの経験が豊富なドライバーには有名な、難しい場所だからです。また、彼のリタイアはアルゼンチンでの状況と似ている部分もあります。こうしたタイプの衝撃にマシンが対応できる方法を模索しなくてはなりません」

「アンドレアスのアプローチは、非常にしっかりとしたポジティブなものでした。イベント前のテストで、私たちは C3 WRC を彼のドライビングスタイルに合わせる必要があると理解しました。彼は、左足ブレーキを一切行わないのです。この作業にはもちろん時間がかかるので、今回のラリーはテストセッションのような意味合いを持つことになりました。総合 8 位というリザルト以上に、一緒にいい仕事ができたと考えています。彼は、我々がどんなポイントに取り組みなくてはならないのかを指摘し、さらなる改善が見込める点を特定してくれました」

## 次戦のポーランドではドライバーラインナップを変更

チームはすでに、次の第 8 戦ポーランド(6 月 29 日-7 月 2 日)に視点を移しています。シトロエン・トタル・アブダビ WRT はこのポーランドに、グリーン/マーティン組、ステファン・ルフェーブル/ギャビン・モロー組、ミケルセン/ヤーゲル組という 3 台の C3 WRC で出場します。

「残念な結果が続いたことから、クリス・ミックには、このラリーは参戦を見合わせるように伝えました」と、マトンは説明します。




「クリスは、これがチームにとって最善の選択であることを受け入れてくれました。彼が理解してくれたことに感謝します。彼には、一戦休むことで充電して、プレッシャーから解放された状態でラリーフィンランドの準備に取り組んでもらいたいと思います。彼は、昨年のフィンランドでは完璧なパフォーマンスで勝利を収めていますから、より強くなって戻ってきてもらいたいですね。それと同時に、ラインナップを変更することで、アンドレアスとの関係を強化することができます。今回の参戦は、結果を求めるものというよりも、テストセッションのような感じでした。2 度目の参戦で、今回の経験を活かして上位陣との差を詰めることのできるチャンスが生まれます。さらに、彼はラリーポーランドでは昨年勝っており、得意としているイベントでもあるのです」

「また我々は、クレイグ・グリーン、ステファン・ルフェーブルら、若手ドライバーを支援するという使命にも取り組み続けます。ふたりは次のラウンドにも参戦します」と、マトンは続けます。

「ふたりも 2016 年のラリーポーランドに参戦しており、まずまずのパフォーマンスを発揮しました。このため、今回は実力を発揮する絶好のチャンスと言えます。もちろん、彼らのメインターゲットは、ミスをせずにラリーを走り切ることに変わりはありません」

WRC 第 8 戦に備えるため、チームはポーランドで 4 日間のテストを行います。このテストには、ミケルセン、グリーン、ルフェーブルらが、C3 WRC で臨みます。ミック/ナゲル組も、ポーランドの事前試走には参加予定です。

### 世界ラリー選手権 (WRC) 第7戦ラリーイタリア・サルディニア 最終結果

1.	オット・タナク／マルティン・ヤルベオヤ	フォード・フィエスタ WRC	3:25:15.1
2.	ヤリ-マティ・ラトバラ／ミーカ・アンティラ	トヨタ・ヤリス WRC	+12.3
3.	ティエリー・ヌービル／ニコラス・ジルスール	ヒュンダイ i20 クーペ WRC	+1:07.7
4.	エサペッカ・ラッピ／ヤンネ・フェルム	トヨタ・ヤリス WRC	+2:12.9
5.	セバスチャン・オジェ／ジュリアン・イングラシア	フォード・フィエスタ WRC	+3:25.3
6.	ユホ・ハンニネン／カイ・リンドストローム	トヨタ・ヤリス WRC	+3:38.5
7.	マッズ・オストベルグ／オーラ・フローネ	フォード・フィエスタ WRC	+6:31.8
8.	アンドレアス・ミケルセン／アンデルス・ヤーゲル 	シトロエン C3 WRC	<b>+8:07.8</b>
9.	エリック・カミリ／ベンジャミン・ベイラス	フォード・フィエスタ R5	+11:15.8
10.	ヤン・コベッキー／パベル・ドレスラー	シュコダ・ファビア R5	+11:21.4
25.	クレイグ・ブリン／スコット・マーティン 	シトロエン C3 WRC	<b>+44:39.5</b>
R.	クリス・ミック／ポール・ナゲル 	シトロエン C3 WRC	転倒

### WRC マニュファクチャラーズ選手権 ポイントスタンディングス

1.	M スポーツ・ワールドラリーチーム	234
2.	ヒュンダイ・モータースポーツ	194
3.	トヨタ・ガズーレーシング WRT	143
4.	シトロエン・トタル・アブダビ WRT 	<b>97</b>